

2015年版 環境・社会報告書

ENVIRONMENTAL AND SOCIAL REPORT 2015

フタバ産業株式会社

特集 農業分野

ハウス栽培用CO₂貯留・施用装置の開発



■お問い合わせ先
総務部 CSR・環境課
〒444-8558 愛知県岡崎市橋目町字御茶屋1番地
TEL:0564-31-2211 FAX:0564-31-2220
URL:<http://www.futabasangyo.com/>

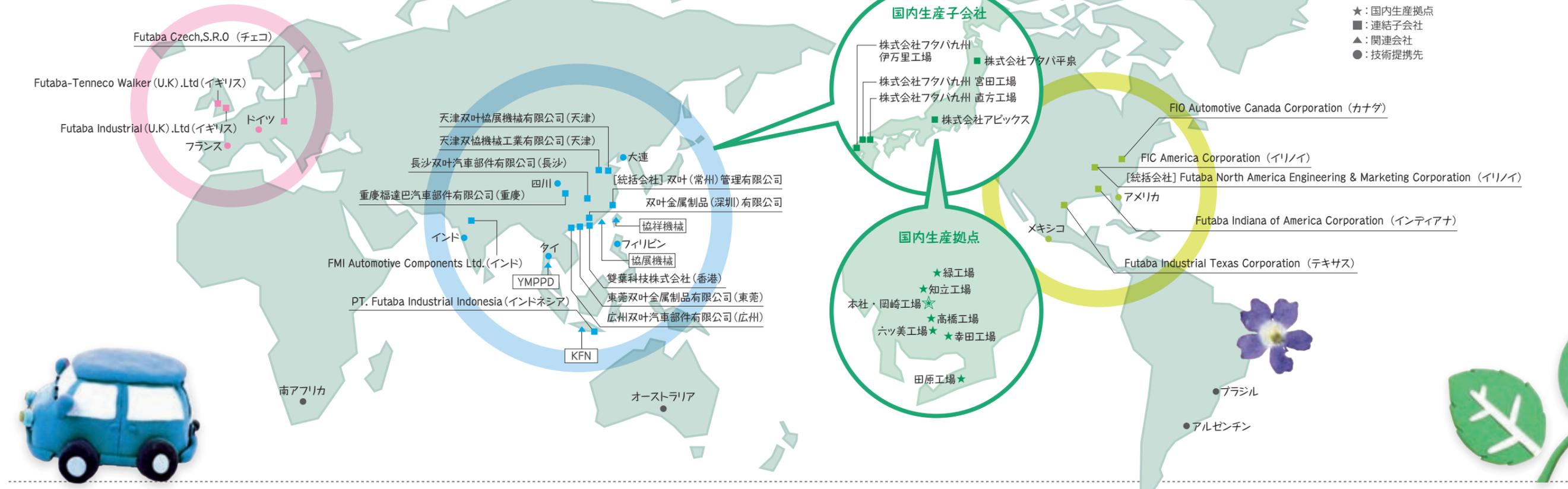


この環境・社会報告書には、森林に配慮して適切に管理された森林認証用紙（FSC®認証用紙）、有害なVOC（揮発性有機化合物）成分が含まれていない植物油インキ、印刷時に浸し水を使用せず同じくVOCを大幅に低減する水なし印刷が採用されています。



フタバ産業の事業展開と編集方針

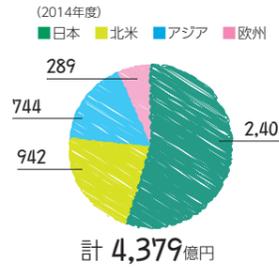
フタバ産業は国内拠点の充実とともに、海外では北米・欧州・東南アジア、そして中国と生産拠点を広げ、お客様の必要とする時に、求められる場所へ、よい品をより安く納入できる体制を世界に築いています。



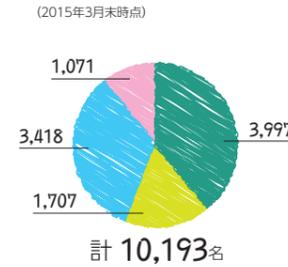
●会社概要

名称 フタバ産業株式会社
 本社 愛知県岡崎市橋目町字御茶屋1番地
 創立 1945年11月1日
 資本金 118億円
 事業内容 自動車等車両部品、情報環境機器部品、治具溶接機等の製造および販売

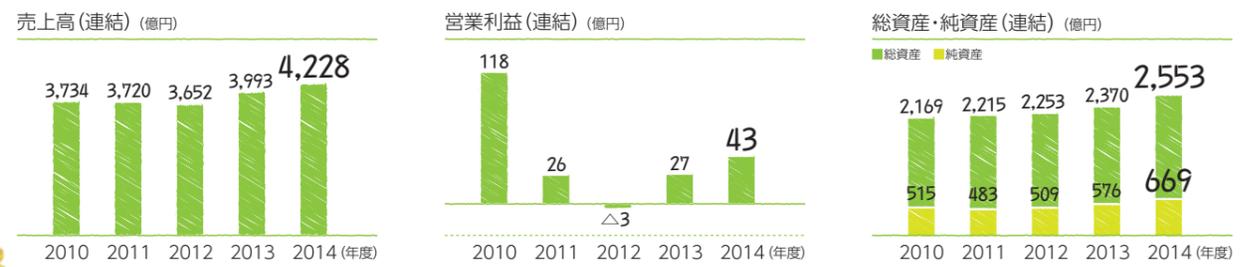
●地域別売上高(連結) (億円)



●地域別従業員数(連結) (名)



●業績



編集方針(お読みいただく皆様へ)

「環境・社会報告書」は、フタバ産業の環境・社会分野における一年間の活動結果と今後の計画を社会との関わり合いに焦点を置き、ご紹介する年次報告書です。読者の皆様との大切なコミュニケーションツールとして発行しております。ぜひアンケートをご利用いただき、ご意見、ご提案やご質問などをお寄せください。

参考ガイドライン
環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」、GRIガイドライン第3.1版

報告対象期間
2014年4月1日～2015年3月31日
※一部、対象期間外の取り組みも紹介しています。

発行
2015年8月(次回2016年8月予定)

報告対象範囲
フタバ産業株式会社
※環境報告データの対象範囲は、ISO14001を認証取得している国内7工場(岡崎、緑、知立、幸田、六ツ美、高橋、田原)となります。
※一部、グループ会社の活動も紹介しています。

CONTENTS

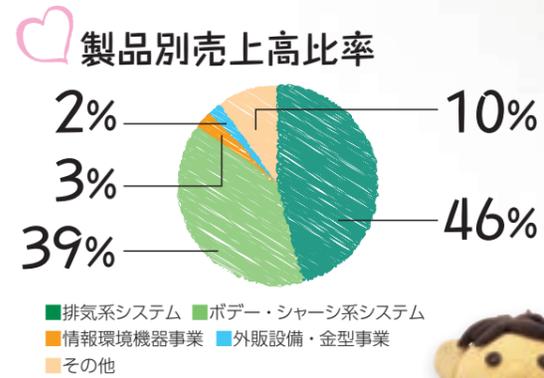
フタバ産業の事業展開と編集方針	1	地球温暖化防止への取り組み	18
フタバ産業の事業フィールド	3	化学物質リスク低減	19
トップメッセージ	5	廃棄物削減と資源循環	20
特集 農業分野 ハウス栽培用CO ₂ 貯留・施用装置の開発	7	水資源保護・生物多様性保全	20
経営理念・経営体制	9	工場・グループ会社の取り組み	21
フタバ産業の経営理念と戦略	9	社会性報告	28
コーポレート・ガバナンス	11	お客様との関わり	28
環境・社会活動への取り組み	13	株主・投資家との関わり	29
環境報告	13	仕入先との関わり	30
環境マネジメント	15	従業員との関わり	31
環境対応製品の開発	17	地域社会との関わり	33



Our Business Fields

フタバ産業の事業フィールド

当社の排気系システムは、環境性能とエンジンの動力性能を高次元でバランス良く実現し、国内外のカーメーカーから高く評価されています。ボデー部品、足廻り部品などの分野においても、最先端の技術で、安全性、信頼性、コスト競争力に優れた製品を生み出しています。また、環境問題に対応すべく、未来を見据えた開発活動も積極的に行っています。



自動車部品事業 排気系システム エンジン性能向上と低騒音化に貢献

自動車の性能を大きく左右する部品です。消音、排出ガス浄化などの環境性能とエンジンの動力性能といった、相反する要求をバランスよく実現しています。また、燃費向上を目的とした排気熱回収システムや、ディーゼルエンジンの排出ガスに含まれる粒子状物質を除去するDPF*など、将来に向けた開発を積極的に行っています。



強み

解析技術を駆使し、排出ガスによる熱の影響や低騒音化を向上させるための最適設計を行っています。

Strength

目指すべき方向性

この製品の性能が自動車全体の環境性能を左右します。さらなる、CO₂の削減を目標に研究開発を進めています。

Direction

情報環境機器事業

自動車部品製造で培った高度なプレス技術と精密な組立技術により、カラー複合機などの部品をモジュール単位で開発から生産まで行っています。また、近年では家庭用燃料電池の構成部品などの開発・生産も行っています。



トレイモジュール

外販設備・金型事業

自社設備のメンテナンス性と生産性向上のための新技術・新工法の蓄積が、当社第3の事業に発展しています。製造現場の声を反映し、得意先のニーズを先取りした溶接組立設備や金型をつくっています。



3次元CADによるヘミング装置とヘミング金型

自動車部品事業 ボデー・シャーシ系システム 安全性向上と軽量化を両立

車の骨格を形成し、運転者や同乗者の身体を守る部品です。軽量化による燃費向上と安全性能を両立させるため、鉄鋼メーカーとの協業によるハイテン材（高張力鋼板）とその加工技術の開発や、レーザー溶接技術の開発・製品製造への適用を進めています。

強み

鉄鋼メーカーとタイアップし超高張力鋼開発、高度な解析技術を通じた最適開発が強みです。

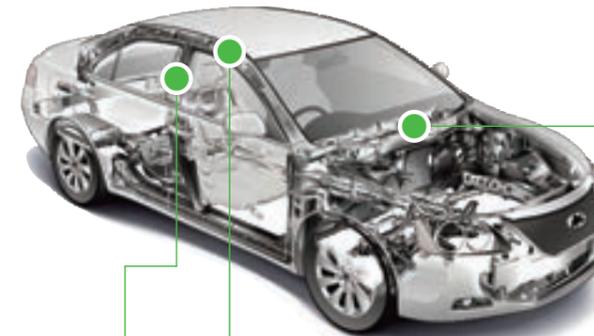
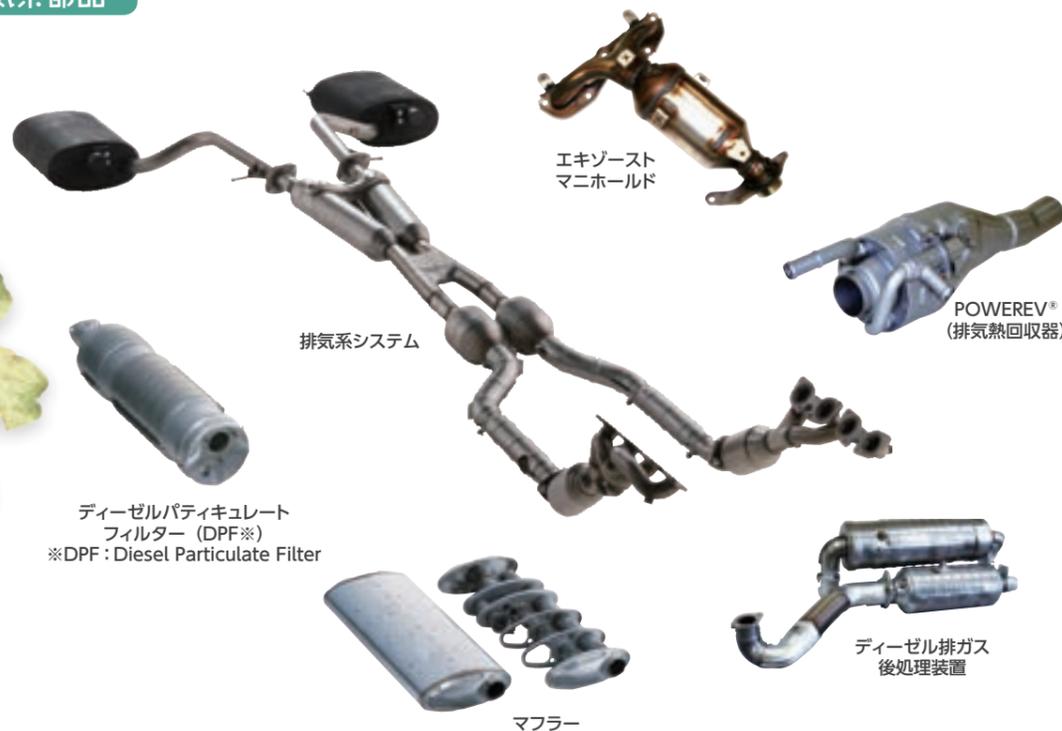
Strength

目指すべき方向性

環境性能と安全性能の両立、進化を目指した開発を進めています。

Direction

排気系部品



内外装部品



ボデー骨格部品



足廻り部品



燃料系部品



30年後に必要とされる会社となるべく、 社会と会社の良い関係を目指してまいります。

2014年度の経営の総括

2014年度は昨年5月に発表した第2次中期経営計画に基づき、安全第一、品質向上、人材育成や組織活性化などに取り組みつつ、自動車業界における事業環境変化に対応し、収益改善活動や環境対応製品開発などに注力しました。今後も持続的にステークホルダーの皆様の期待に応え続けていくためには、さらなるCSR経営の推進と合わせて品質向上、生産の効率化を進め、持続的な収益力も高めていかねばならないと認識しています。

CSRの基盤と重要課題のレビュー

当社グループは社是である「よい品、より安く」を原点に、経営理念、企業憲章、フタバ行動指針へと現場にブレイクダウンする形でCSR経営を位置づけています。2014年度は第2次中期経営計画と連動しながら、品質、安全、ものづくり改革、人材育成、組織活性化と言った重点テーマと合わせて、ステークホルダーの皆様の期待に添える活動を行いました。

社是にもありますように、「品質」は当社の価値創造の根幹を成すものであり、これを高めることが非常に重要です。また、これに合わせても

のづくり企業として「安全」な職場づくりも最重要課題と認識しております。これらの向上の為に、設備の整備と、標準作業の遵守の徹底が何より重要です。速やかに不良や故障の原因を究明し、重点的に対策を打ち、飽くなき向上に努めてまいります。

また収益力に直結する「ものづくり改革」と「コア技術強化」については、当社は2012年度より「フタバNGA」を立ち上げ、先行開発段階から全社を挙げた活動を推進しており、次世代マフラーとして構成部品の種類数を従来より約75%削減した「超薄型マフラー」を開発しました。これは、トヨタ自動車から「TNGA推進優秀賞」を受賞し、成果が形となって現れています。これらは収益貢献が期待されるのみならず、品質向上や環境負荷削減にもつながり、まさに「ものづくりで社会へ貢献」した事例と言えるでしょう。

しかし、これらの取り組みが長期的な企業のDNAに昇華していくためには、「従業員」が共に生きがいと誇りをもてる会社である必要があります。2014年度は風通しの良い職場、風土改善を目指し、ローテーションの活発化、有給休暇取得促進なども進めました。また人材育成面では、実務職向けの研修、事技部門の改善報告会、新事業分野への進出に向けた人員の公募など、数々の新しい施策を行っております。こうした地道な取

フタバ産業のステークホルダー



り組みを続けながら風土改革を進めてまいります。

また、従業員による加害事故件数は、2014年度は35%減と、引き続き30%以上の改善となりましたが、自動車産業に関わる企業として、事故件数0を目指して取り組みを続けてまいります。

2015年度の取り組み課題

2015年度は、「輝く未来へ、更なる挑戦」をスローガンに、安全第一、品質向上、人材育成などに引き続き注力しつつ、グローバルに連携を強化しています。ものづくりの現場での災害撲滅を進めつつ、グローバル人事制度を整備、教育も充実させ、課題であるワークライフバランスの向上や、女性、外国人、障がい者など人材の多様化に取り組んでいきます。そうした「人」と、これまで培ってきた「ノウハウ」をベースに、今後の成長の柱としての環境対応製品を伸ばしていきます。マフラーやDPFといった従来製品の環境性能を上げていくのみでなく、家庭用燃料電池や、今回特集でご案内している施設園芸における効率的かつ低コストなエネルギー供給装置及び利用技術の開発など、自動車で培った技術を生かした新分野への展開も着実に進め、フタバの製品が売れば売れるほど地球環境にもプラスになる形を整えていきたいと思っております。

今後の決意

フタバ産業は今年で70周年を迎えることができました。これも一重にステークホルダーの皆様のご支援の賜物だと考えております。改めて深く御礼申し上げます。今後もステークホルダーの皆様のご関心を勘案しつつ、持続的に価値を創造し続けていかなくてはなりません。例えば100周年を見据えた時、社会も技術も大きく変わっていることが予想されます。その時に必要とされる企業となるには今どうすべきか、今一度問い、考え、実践していく、それがまさにサステナビリティ（CSR）経営であり、さらに社会と会社の良い関係を目指して取り組んでいく決意であります。ステークホルダーの皆様におかれましては、引き続きご理解とご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長

三島康博



ハウス栽培用CO₂貯留・施用装置の開発

農業のハウス栽培では冬の暖房のために燃焼式加温機を夜間に稼働させています。また一方で、収穫量向上のために光合成を促進する目的や、溶液栽培の普及によるハウス内のCO₂不足を補う目的で、燃焼式のCO₂発生機を屋間に稼働させています。(8頁図の左側) 夜間暖房で排出されるCO₂を屋間の光合成に利用できれば、CO₂発生機を廃止し、屋間にも燃料を燃やすという大きなムダを省くことができ、CO₂排出の抑制にもつながります。

これらを実現するために、当社が今まで自動車分野で培ったコア技術を活用して、CO₂貯留・施用装置の開発を進めています。

昨年度の実証試験では、加温機の排ガスから有害ガスを除去し、CO₂を夜間暖房時に貯留し、翌日の屋間に作物に施用することを実現することで、収穫量の向上と品質の向上を確認しました。

また従来のCO₂発生機から出るCO₂は熱を持っているため、ハウス内の温度を上昇させてしまうという欠点がありますが、当社の装置から出るCO₂は常温まで冷えているという点も高く評価されています。

当社は本システムの開発を更に加速し、日本の農業の発展に貢献していきます。

開発担当者の声



技術本部 環境関連機器開発課 担当員
丹羽 祐治 (左) 齊藤 隆 (右)

コア技術で農業分野へ

当社のコア技術を活かせる分野はないのか、自動車業界というワクを取り払って幅広く調査し、事業の企画から始めて、現在開発を進めるに至っております。地道な活動が幸いにも早い段階で農林水産省の目に留まり、国の委託のもと、この事業を進められていることをメンバー共々誇りに感じております。

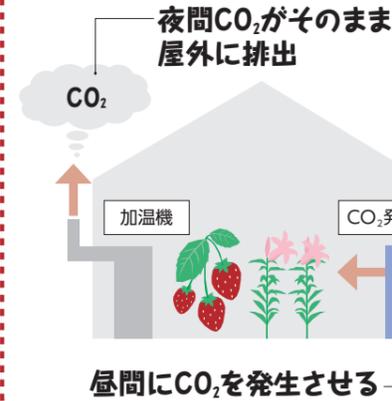
ここまでは順調に開発が進んでおり、市場投入は間近である手応えがあります。農業分野の方々から商品化を待望されている技術ですので、一日も早く夢を叶えられる様がんばっていきたくと考えております。

当社は、農林水産省委託プロジェクト研究『施設園芸における効率的かつ低コストなエネルギー供給装置及び利用技術の開発』（熱プロの拡充 CO₂プロH26~28）に参加しております。
(奈良県農業研究開発センター、産総研、フタバ産業株)

排気熱回収器 (POWEREV₂) ▶

熱交換による冷却

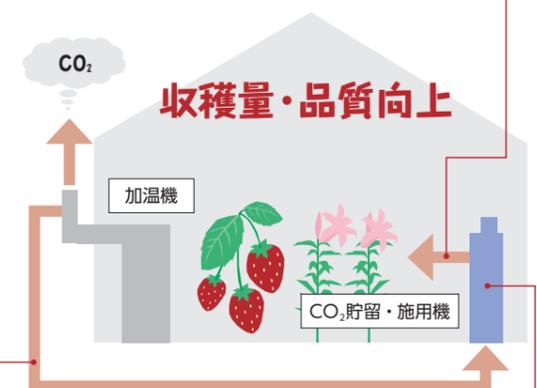
従来のCO₂施用法



フタバの技術 **3**

排気熱回収器のヒートマネージメント技術

開発中のCO₂施用法



CO₂の再利用

フタバの技術 **2**

キャニスターの技術

排気ガスの吸脱着



フタバの技術 **1**

排気管の排ガス浄化技術

排ガスの浄化

排気系システム▶

いちご シクラメンの栽培実証の様子

(奈良県農業研究開発センターにて)



フタバ産業の経営理念と戦略

ステークホルダーの皆様へ信頼される会社であり続けたいという思いを、「社是」「経営理念」「VISION2020」に刻み、事業活動を行っています。

社是 …… よい品、より安く

私たちは、

- 経営理念 ……
1. お客様に信頼され、なくてはならない会社
 2. 共に働く仲間が、生きがいと誇りを持てる会社
 3. 地域社会から広く支持され、愛される会社

であるよう、たゆまぬ努力を続けます。

企業憲章

1. 法令および社会規範等の遵守

私たちは、国内外の関係法令、社会規範、社内規程を遵守し、高い倫理観を持って企業活動を行い、社会的責任を果たします。

2. 社会への貢献

私たちは、国内外の文化・習慣を尊重し、環境保全に努め、地域とともに成長し、地域に喜ばれる企業となります。

3. 企業の存在意義

私たちは、最先端技術の研究と開発に努め、製品・サービスを、お客様に満足していただける品質・コストで、全世界に提供します。

4. よりよいコミュニケーションと企業風土の醸成

私たちは、社内外、職位を問わず様々な人の意見を真摯に受け止め、自由な発想で、活発に意見を表明できる、明るく活力のある企業風土を作ります。

5. 従業員の尊重

私たちは、従業員の人格、個性を尊重し、安全で働きやすい環境を確保するとともに、従業員のゆとりと豊かさの実現に努めます。

6. 適切な情報開示

私たちは、企業情報を適切に開示し、企業の透明性と健全性を向上させます。

7. 社会との調和

私たちは、良き企業市民として社会と調和し、社会秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力には断固対決します。

8. 取引先・関係会社等と共に成長・発展

私たちは、常にグローバルな視野で革新的な経営を行い、取引先・関係会社等様々なステークホルダーと共に成長・発展に努力します。

フタバ行動指針

第1章 会社との関係におけるわたしたちの行動

1. 明るい健全な職場づくり
2. 資産保全と機密の管理

第2章 会社の活動におけるわたしたちの行動

3. 環境保護活動
4. 営業・調達活動
5. お客様から信頼されるモノづくり
6. 世界から信頼される企業を目指して

第3章 社会との関係におけるわたしたちの行動

7. 社会とのオープンで公正なコミュニケーション
8. 社会から信頼される企業市民に
9. 健全な市民として
10. 思いやりのあるドライバーとして

VISION2020

2020年度に向けて、当社の目指す姿および数値目標を「VISION2020」とし、以下のとおり策定いたしました。

国内市場の成熟化および新興国市場の成長性を考え、海外拠点を中国、東南アジアの新興国を中心に展開し、さらなる成長を目指してまいります。

また、当社のコア技術であるプレス・溶接技術を磨き、「環境」「省エネ」をキーワードに、自動車部品事業を中心に環境関連分野へ商品を拡大してまいります。こうした活動に対し、スピード感溢れる経営を行ってまいります。

2020年度の目標として連結売上高6,000億円、海外売上高比率50%、営業利益率7%を目指してまいります。

- ・CSR経営の促進
- ・人材育成の強化
- ・環境対応商品の開発促進
- ・自動車事業依存リスクの軽減
- ・グローバル化拡大

スピード感溢れる経営

モノづくりで
社会に貢献

挑戦する人の
集団

新しい価値を
世界へ提供

第2次中期経営計画（2014～2016年度）

当社は中期経営計画を確実に実行し、新たな成長を目指します。

1. 「安全、品質」の深化・向上と安定供給

「安全、品質」を深化・向上させ当社製品を常にお客様へ安定してお届けすることにより、お客様満足度の向上や企業の社会的責任を果たします。

2. 「ものづくり改革」と「コア技術強化」による収益力の向上

ものづくり改革として材料の仕入れからお客様への納入までの全過程において新たな視点から改善を進め、安全性・品質・生産効率をより進化させた「次世代革新ライン」を構築します。コア技術の強化につきましては、お客様のニーズである車体の軽量化、衝突安全性の両立を実現するため、素材の薄肉化、超高強度化を達成する「ホットプレス」、「冷間プレスでの120kgfハイテン材の加工」に積極的に取り組みます。

3. スピーディーなグローバル展開

各拠点と双方向コミュニケーションをとり、グローバルに当社の最良事例を展開しグループ全体の総合力を向上させます。北米、中国は各統括会社を中心に、各拠点の自立化を推進し、その他の地区については日本本体が中心となり、各機能軸で直接かつスピーディーなコミュニケーションをはかります。

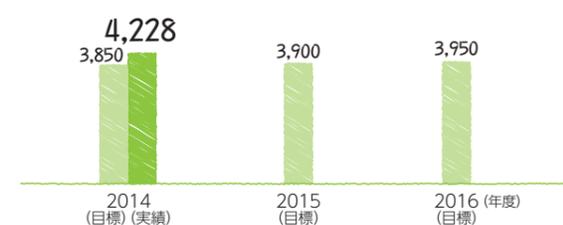
4. コア技術を活かした新しい価値の創出、商品化

当社のコア技術を活かし「安全・環境・省エネ・高機能・低コスト」をキーワードにグローバルに商品を展開します。当社のコア技術の一つであるヒートマネジメント技術を用いたPOWEREV®（パワレヴ・排気熱回収器）を実用化しています。小型化、高性能、搭載性などお客様のニーズにお応えする商品開発を行い商品力の向上に努めます。また、今後成長が見込まれる家庭用燃料電池関連、DPFなど環境関連商品を収益力の柱として積極的に開発・商品化します。

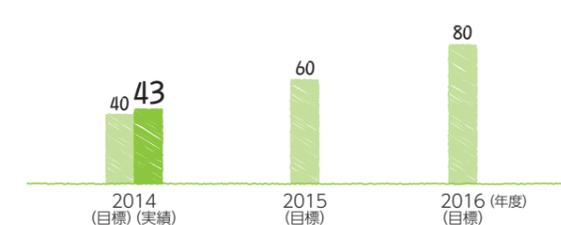
5. 人材育成、組織活性化

経営理念、ビジョンをグローバルに共有し、ローカル経営者を育成し、マネジメントの現地化を推進します。また、ものづくりを支える技能教育、各分野における専門教育、階層別教育など機能毎の人材育成プログラムを実行し、活性化された職場づくりを行います。

売上高 (億円)



営業利益 (億円)



コーポレート・ガバナンス

当社は、コーポレート・ガバナンスの目的を「健全で強い企業を作るため、企業内外の多様なステークホルダーの視点から経営の適正化を図ること」と捉えています。そのために法令や社会的規範を遵守した事業活動の実施と、経営の透明性の向上を推進しています。

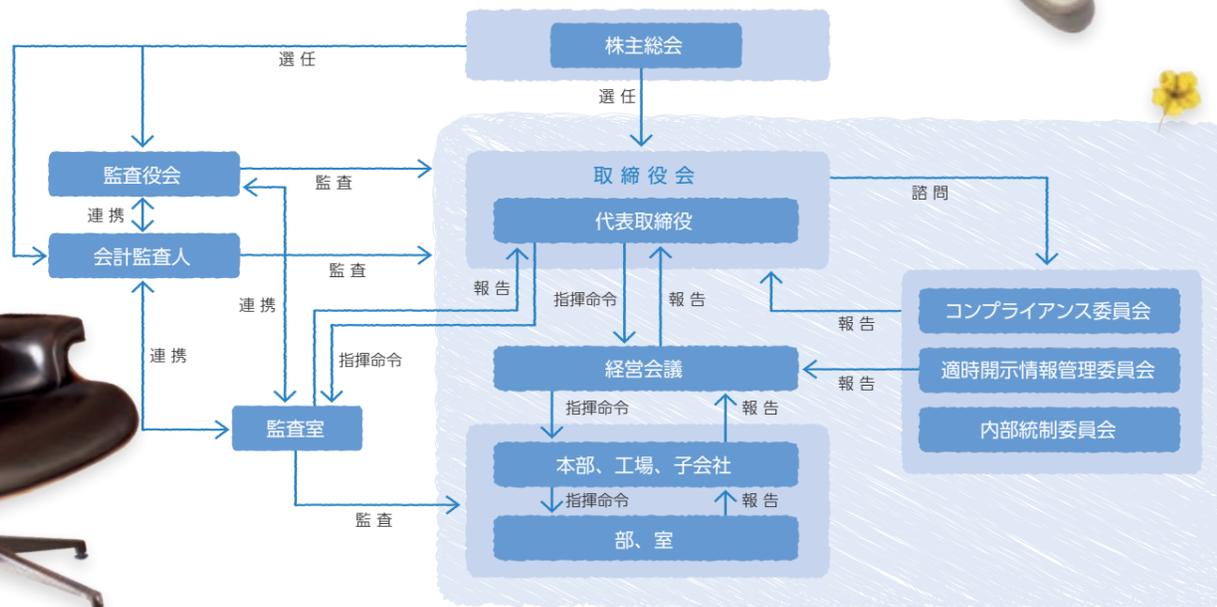


前列左側より、(社外) 監査役 玉木 利明、常勤監査役 杉木 梅信、(社外) 取締役 木下 潔、代表取締役社長 三島 康博、代表取締役副社長 吉貴 寛良、取締役専務執行役員 岩月 幹雄、取締役常務執行役員 二井 広一
後列左側より、取締役常務執行役員 大橋 二三夫、取締役常務執行役員 三宮 嗣巳、取締役常務執行役員 吉田 隆行、(社外) 監査役 吉村 善裕、(社外) 監査役 堀江 正樹、取締役常務執行役員 高橋 友寛、取締役常務執行役員 浅川 慶太

ガバナンス

業務執行等の最高決定機関である取締役会は、法定事項および重要事項の討議、経営戦略の決定、業務執行の監督を行っています。業務執行にあたっては、経営会議を開催し、取締役会上程事項とその他重要事項や個別案件を協議することにより、的確かつ迅速な経営判断ができる体制を構築しています。

●フタバ産業のコーポレート・ガバナンス体制



内部統制

当社の内部統制に対する基本的な姿勢は、業務を適正に遂行するため、取締役自らが率先垂範して法令および企業倫理を遵守し、その言動を通じて社員への浸透をはかることです。また、業務の執行に際しては、問題発見と改善の仕組みを業務執行プロセスに組み込むとともに、それを実践する人材育成と組織づくりに取り組んでいます。

内部統制方針

1. 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
5. 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
6. 企業集団における業務の適正を確保するための体制
7. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
8. 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項
9. 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制
10. その他監査役が実効的に行われることを確保するための体制

コンプライアンス

当社におけるコンプライアンスとは、「法令遵守はもとより、社会の構成員たる企業人として求められる価値観・倫理観をもって誠実に行動すること。それを通して公正かつ適切な経営を実現し、市民社会との調和を図り、企業を創造的に発展させていくこと。環境問題を重視し、自らが行動を起こし、環境の保全に努めること。」と定めます。

当社は、企業の社会的責任と公共的使命を自覚し、高い倫理観を持って企業活動を行い、社会的責任を果たします。また、国内外の文化・習慣を尊重し、環境保全に努め、地域とともに成長し、地域に喜ばれる企業であるよう様々な活動を展開してまいります。

啓発活動

コンプライアンス教育ならびに業務に関連する法規についての教育を、担当者、職制（班長など）、部課長に対し実施しています。また機密管理に関する教育を全社員に実施しております。

ヘルプラインの設置

コンプライアンスに関わる様々な問題・疑問点について、適切な相談ができるよう社内・社外に「フタバヘルプライン」を設置しています。

リスクマネジメント

当社では、組織目標の達成を阻害する要因、あるいは事業の継続に影響を与えうる要因をリスクとして識別し、分析、評価、対応を行うPDCAサイクルを回すため、各種委員会を立上げております。例えば、情報漏えいリスクには機密管理委員会、品質問題には品質委員会、不正リスクにはコンプライアンス委員会、内部統制やガバナンスには内部統制推進委員会などによりリスクアセスメントを行い、リスクの低減や回避などの適切な措置を図っています。

事業継続計画（BCP）

当社では、震災リスクに注目し、人命第一をベースとした一刻も早い復旧に向けたBCP活動に取り組んでいます。緊急地震速報や安否確認システムの導入、避難経路の安全確保や設備の転倒・落下防止対策など、防災・減災の取り組みとともに、有事に力を発揮できる要員確保に向けた人材教育や、想定被害からの早期復旧に向けた事業継続計画（BCP）を策定しました。また岡崎市との間で災害時の施設協力の協定を締結しました。

情報セキュリティ

当社では、機密情報の保護・管理のため、機密管理ハンドブックを発刊し、従業員への機密管理意識の徹底を図っています。

環境・社会活動への取り組み

全社環境会議のもと、事業活動における環境・社会活動の各項目に関する年度目標を立てて、継続的な改善に取り組んでいます。

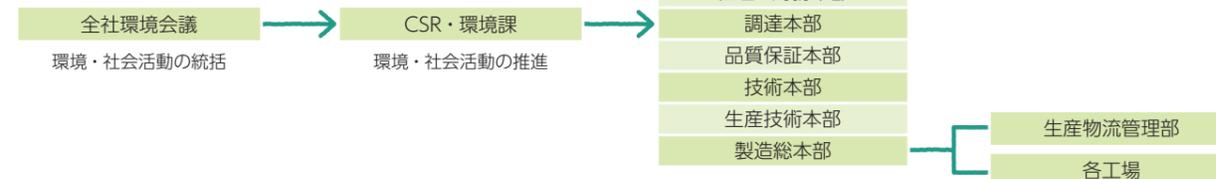
環境マネジメント

年2回開催する全社環境会議では、社長を議長とし、当社における環境活動および社会活動推進の取りまとめを行っております。本年度は、『サステナビリティの実現のための環境活動と社会貢献活動の推進』を会社方針に掲げ、地域社会とともに、企業の持続的発展を目指して取り組んでまいります。

2014年度の結果と2015年度の目標

全社環境会議により、環境活動と社会活動を推進しています。

●全社環境会議推進体制



☀️ … 達成 ☁️ … 一部達成

項目	主管部署	関連ページ	2014年度			2015年度	
			目標	実績(取り組み・活動)	結果	目標	
環境活動	環境経営	総務・人事本部 (CSR・環境課)	P.15 P.16	各組織で活動を充実・レベルアップさせる (国内子会社を含む)	全社環境会議で活動状況をフォロー 環境マネジメントシステムの認証継続	☀️	各組織で活動を充実・レベルアップさせる (国内子会社を含む)
				環境法令の遵守	環境関連法令の自主基準での管理を実施	☀️	環境法令の遵守
	環境対応製品	技術本部 生産技術本部	P.17	環境対応製品の開発	ホットスタンプボデー部品の開発完了 高効率エンジン用エキマニの開発完了	☀️	環境対応製品の開発 (更なる小型化・軽量化・高効率化)
				地球温暖化防止	製造総本部	P.18	本来業務でのCO ₂ 排出量 2013年度実績の 1% 削減
	化学物質リスク低減	製造総本部	P.19				エネルギー管理の推進
				廃棄物削減と資源循環	製造総本部	P.20	物流でのCO ₂ 排出量 2013年度実績の 1% 削減
社会活動	廃棄物削減と資源循環	製造総本部	P.20	化学物質の使用・排出・移動の量を把握する			化学物質管理システムの活用により 対象物質の使用・排出・移動の量を把握
				廃棄物排出量 2013年度実績の 1% 削減	廃棄物の有価物化の推進により2013年度比 22% 削減	☀️	廃棄物排出量 2013年度実績の 18% 削減
	お客様	品質保証本部 営業本部	P.28	廃棄物の排出量と処理状況を把握する	廃棄物管理システム活用、現地調査の実施により 廃棄物の排出量と処理状況を把握	☀️	廃棄物の排出量と処理状況を把握する
				お客様からの信頼を得る	品質改善活動の推進	☁️	お客様からの信頼を得る
	株主・投資家	経営企画室 総務・広報課	P.29	株主・投資家からの信頼を得る	適時、正確かつ適正な情報を提供	☀️	株主・投資家からの信頼を得る
仕入先	調達本部	P.30	仕入先との関係強化、共に発展する	定期連絡会、コミュニケーションルーム活用により信頼関係を強化	☀️	仕入先との関係強化、共に発展する	
従業員	人事部	P.31 P.32	安全で働きやすい職場をつくり、 ゆとりと豊かさを実現する	能力開発教育の実施 育児支援制度の充実 障がい者雇用の拡充	☀️	安全で働きやすい職場をつくり、 ゆとりと豊かさを実現する	
地域社会	総務・人事本部	P.33 P.34	地域社会からの信頼を得る	積極的な社会貢献の推進(交通安全立哨活動、ボランティア清掃活動への参加) フタバ産業旗争奪少年野球大会の開催 森づくり活動の実施 岩手県平泉町へのふるさと応援寄附金の納付 エコキャップ活動への参加 わくわく省エネ体験教室への展示	☀️	地域社会からの信頼を得る	

環境マネジメント

環境経営を事業活動の重要基盤の一つと定め、社員の環境意識の向上に努め、継続的改善に取り組んでいます。

担当役員のメッセージ



トップマネジメント
岩月 幹雄

全工場が一体となり、より高いレベルを目指します

当社では、全工場を統一した環境マネジメントシステムを構築し、継続的な改善を行っています。この統一されたシステムにおける活動として、例えば公害防止・資源保護・省エネ・廃棄物の4つの分科会による全工場横断的な改善活動があります。このような全工場が一体となった活動によって、各工場の環境がより高いレベルで均一に維持することができていると自負しております。

特に今年度は、省エネに関する活動が確実に定着してきたことが結果し、過去4年間で達成できなかったエネルギー使用量（原油換算原単位）の目標を達成させることができました。この省エネ分科会の活動は、ISO14001外部審査においても高い評価をいただき、その他の分科会の活動と併せて、当社の環境マネジメントシステムの有効性が認められました。

これからも、地域の皆様に愛され環境にやさしいフタバを目指して、全社一丸となって環境改善活動に取り組んでまいります。

環境方針(抜粋)

環境理念 2010年11月1日改訂

7工場（自動車部品の生産、情報環境機器部品の生産、外販用設備・金型の製作）は、環境保全を地球規模の重要課題との認識に基づき、環境経営を事業活動の根幹にして地球環境の保全に積極的に寄与する。
このため、環境マネジメントシステムを事業活動の重要基盤の一つと定め、事業活動により環境に影響を与える項目に関して継続的改善を実施し、地域社会との調和を図る。

環境マネジメントシステム

公害防止、廃棄物、省エネ、資源保護の4つの分科会を主体として、全工場横断的な改善活動に取り組んでいます。その成果として、各工場の環境が高いレベルを維持できるようになってまいりました。今後も環境マネジメントシステムを活用し、継続的な改善に取り組み、更なる向上に努めてまいります。

環境関連法規制遵守状況

各種環境関連法規制に関しては、より厳しい自主基準値を設定し、遵守状況を毎月確認しております。水質に関しては、工場内の浄化槽や排水システムの管理体制を、全社横断的に整えレベルアップを図りました。また、騒音・振動に関しては、工場外周への防音壁設置、建屋壁面への防音施工を行いました。これらの取り組みが奏功し、2014年度は法規制の逸脱はありませんでした。

環境教育

内部監査員については、社外講師による養成教育およびレベルアップ教育を年1回実施し、監査の質の向上を図っております。新入社員、新職制に対しても、環境マネジメントシステムに関する理解度を高めるための教育が、適時実施されております。

環境苦情と対応状況

法令や協定の基準値を順守することだけで満足せず、近隣にお住まいの皆様の生活に配慮し、レベルアップに取り組んでおります。

知立工場

2014年10月に、リフト操業時の音に対する騒音苦情をいただきました。夜間のリフト操業に関する作業員への教育実施とともに、工場内路面の段差を補修し、発生源対策を行いました。また、工場外周の一部に防音壁を設置し、騒音レベルの低減を図りました。

事業活動における投入資源と排出物

事業活動に必要なエネルギー等の投入量およびCO₂や廃棄物の排出量の全容を把握し、環境負荷物質の削減に取り組んでいます。



環境対応製品の開発

持続可能な（サステナブル）社会のため環境変化やニーズを先取りした環境対応製品開発に取り組んでいます。

開発方針

1. 排気系製品は排気騒音の低減、排出ガスのグリーン化に加え燃費向上に寄与できる技術開発を推進します。
2. ボデー・シャーシ製品は安全性、機能向上に加え燃費向上に寄与できる軽量化を推進します。
3. 省エネルギー、CO₂排出量削減を達成する為に、排気熱回収器（POWERVEV®）や家庭用燃料電池部品などヒートマネジメントシステムの開発を推進します。

環境配慮製品・貢献製品紹介(新製品紹介)

ホットスタンプボデー部品

自動車の燃費競争の中で、車体の軽量化が重要課題とされていますが、一方で衝突安全規制も厳しくなっており、車体の質量が増大する傾向にあります。ホットスタンプとは従来の常温でのプレス加工ではなく、材料を加熱しプレス加工で冷却することによって材料素材を1470MPa級に高強度化する工法であり、板厚を薄板化できる効果が期待できます。本工法がトヨタ自動車FCV「ミライ」のフロントピラーリンフォースに採用され、「軽量かつ高強度化」を満足できる車体に貢献できました。



▲ホットスタンプボデー部品

開発担当者の声

技術本部 ボデー・シャーシ系開発本部
丹羽 健児

軽量化と衝突安全を両立させるには、ホットスタンプはなくてはならない工法です。温度条件等従来と違う工法のため、各部署一体となってものづくり改革を進め、客先設計と強力な連携をとることで大きな課題をクリアしました。今後も本工法の適応部品を拡大することと、更なる軽量化開発にチャレンジしていきます。



低燃費を追求した高効率エンジン用エキマニ

低燃費車と言えば、ハイブリッドエンジン車が主流とされていますが、従来のガソリンエンジン車の低燃費化も市場で拡大しています。従来のガソリンエンジンの低燃費化の手法として、アトキンサイクル化、高圧縮比化する場合、「ノッキング発生」、「ポンピングロス悪化」が課題となります。本エキマニでは、「ノッキングの回避」の為、4-2-1集合排管で燃焼室内掃気の効率を大幅に改善しました。また、大量クールドEGR（排出ガス再循環システム）によって「ポンピングロス低減」、燃費向上を実現し、省エネ・省資源活動に貢献しています。



低燃費を追求した高効率エンジン用エキマニ

開発担当者の声

排気系開発部 エンジン関連部品設計課
吉田 智裕

本エキマニの要求性能の実現には、量産車以上のコンパクトな搭載空間でEGR、ブランチャパイプ径を大型化し、掃気性の高い排気レイアウト設計が求められましたが、要求形状は、製造面では大きな背反となりました。しかし、関係部署と検討を重ね課題を乗り越え、客先の要求性能を満足する設計を実現できました。今後も製造性を考慮し、環境貢献するエキマニ設計に取り組んでいきます。



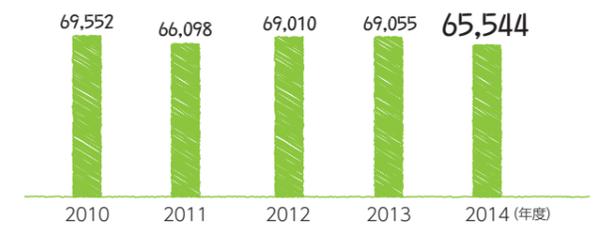
地球温暖化防止への取り組み

省エネ法を遵守し、工場の設備や物流における省エネ活動に積極的に取り組み、地球温暖化防止に努めます。

CO₂排出量の削減

2014年度は、計画的投資による変電所変圧器の更新、重厚長大な生産設備のシンプル化・スリム化・コンパクト化や、待機電力OFFおよびエア漏れ部の改修等と言った、これまでの改善活動と併せて、A重油を燃料とした自家発電機の稼動時間短縮、構内搬送用リフトのガソリン式からバッテリー式への切り替え等を進めることができ、2013年度に比べて5%削減できました。

CO₂排出量 (t-CO₂)



省エネ分科会

当社の環境マネジメントシステムにおいて、省エネ活動の推進を担っております。目標達成計画に対し、毎月進捗状況を確認することで、計画遅滞した場合のリカバリーが、迅速に行なえる体制になっています。

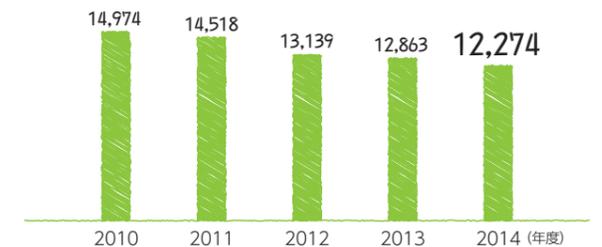
当分科会では、各工場毎のエネルギー使用実績を把握し、省エネ法の定める年1%以上のエネルギー原単位の削減に取り組んでいます。

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	69,552	66,098	69,010	69,055	65,544
削減目標 (%)	—	—	—	基準年	-2

物流におけるCO₂排出量の削減

低積載ルートの調整、工場間集積ルートの集約、サプライチェーンの見直し（内製化）による輸送量の削減、生産移管による長距離輸送の削減、鉄道・船舶の優先利用により、物流におけるCO₂排出量を前年比で4.5%削減となりました。

物流CO₂排出量 (t-CO₂)



	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
物流CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	14,974	14,518	13,139	12,863	12,274
削減目標 (%)	—	—	—	基準年	-1

空調機タイマー制御による燃料削減

従来24h稼動していた空調機をタイマー制御により必要な時間だけ稼動させるように改善しA重油の削減を図りました。

空調機タイマー制御



化学物質リスク低減

化学物質に関する各種規制に対応し、人の健康や生態系に有害となるおそれのある化学物質の使用量、移動量、排出量を管理しております。

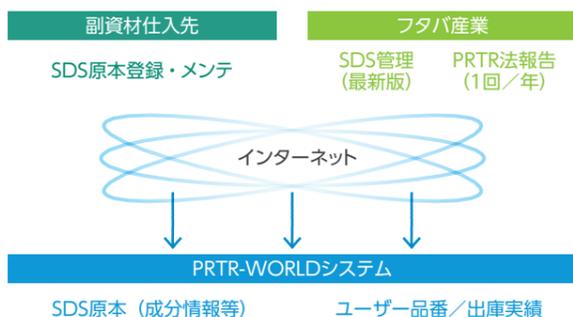
化学物質管理体制

対象物質の使用量・移動量・排出量は、エコ・リサーチ社の化学物質管理システム (PRTR-WORLD) を活用し、副資材 (燃料・塗料・接着剤など) の購入量より算出しております。

PRTRとは…

Pollutant Release and Transfer Register (化学物質排出移動量届出制度) の略で、有害性が疑われる化学物質の排出量や移動量を把握し、届け出る制度。

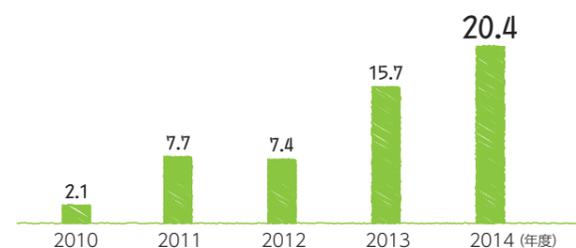
●化学物質管理システムの仕組み



化学物質削減の取り組み

化学物質使用量は全体では昨年度の548tから529tへ3%削減しましたが安全確保、品質向上の取り組みとして、工場床面、パレット、治具の再塗装を行ったことにより、塗装関連の使用量が増えたため、その結果PRTR対象物質の排出量が増えました。

PRTR対象物質排出量 (t)



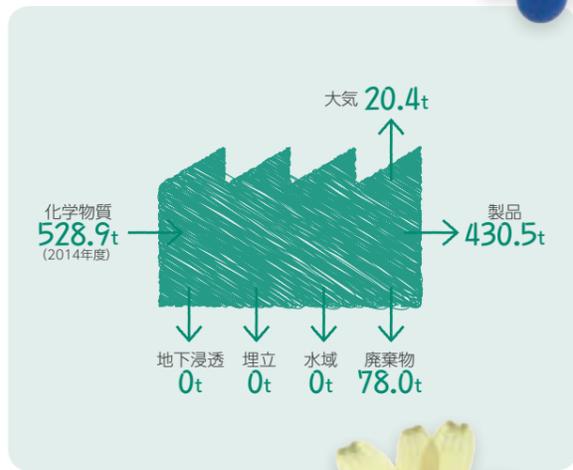
VOC (揮発性有機化合物) 排出量削減

塗料関連の使用量増加に伴い、VOC排出量が増加しました。

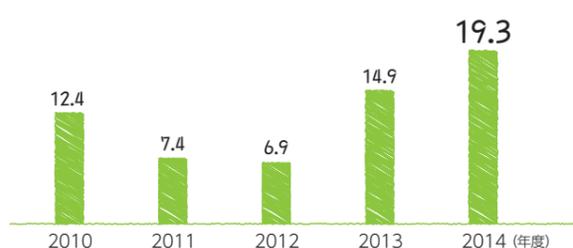
VOCとは…

Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物) の略で、光化学オキシダントなどを引き起こし健康被害の原因となる有害物質。

●PRTR対象物質の排出・移動量



VOC排出量 (t)



廃棄物削減と資源循環

限りある資源を有効に活用するために、環境マネジメントシステムの分科会 (資源保護、廃棄物) を主体として、3R (Reduce, Reuse, Recycle) に取り組んでいます。

産業廃棄物排出量削減

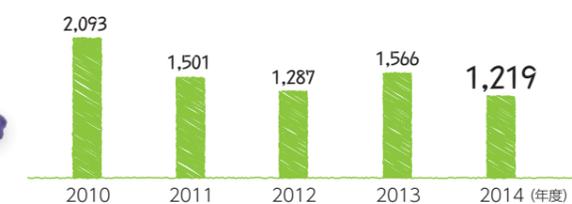
当社は、廃棄物排出量の削減と埋立廃棄物を削減する取り組みを推進しています。廃油やプラスチック、汚泥などの再資源化を進めています。

2014年度は、昨年に比べサプライチェーン見直しによる内製化及び生産設備統合化の影響が減少し、また廃棄物の有価物化の推進により昨年度に比べ産業廃棄物排出量は23%減少しました。



リサイクルされる当社の廃棄物

廃棄物排出量 (t)



水資源保護・生物多様性保全

あらゆる生物の源である水資源の保護と、地元の人工林を本来の生態系に近づける生物多様性の保全に取り組んでいます。

水資源保護

当社では、設備の冷却、製品の洗浄や気密性検査等で工業用水と地下水を使用しておりますが、各所に循環システムを構築し水資源の再利用に努めています。これら工場からの排水については、油水分離槽で油分を除去した後、公共水域へ放流しております。また生活排水については、法規制よりも厳しい自主基準値を設けて常時管理し、敷地内の浄化槽・排水処理施設での処理を経て公共水域へ放流しております。

水使用量 (t)



生物多様性保全の取り組み

当社は岡崎市森林整備ビジョンの主旨に賛同し、2011年5月より『森づくり活動』に取り組んでいます。市内山綱町にある市有林を借用し、間伐や下草刈りを年2回実施してまいりました。当初は、人工的なスギやヒノキおよび常緑広葉樹が生い茂り日中でも薄暗い状態でしたが4年の活動を経て、活動場所は足元にも陽光が差し込む程に明るくなりました。また、間伐材を使った『昆虫の棲家づくり』、クヌギの苗木の植樹も行い、広場の整備が着実に進み、2014年8月には、従業員の家族を招いて『虫捕り』のイベントを開催しました。岡崎市の森林・自然に触れ合える良い機会として、ご好評をいただいております。



2011年当初



2014年時点

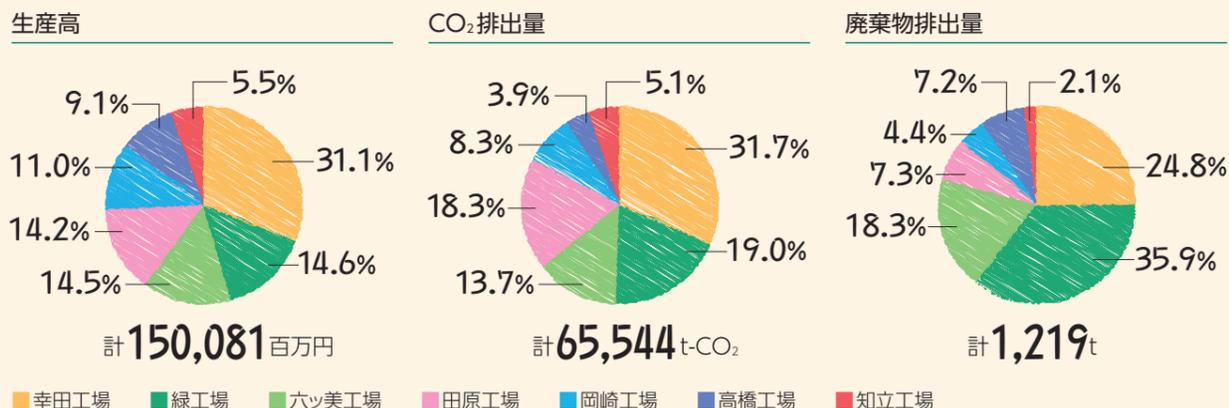
虫捕りの様子



工場・グループ会社の取り組み

当社の工場では環境の保全が、最重要課題の一つであることを認識し、事業活動のあらゆる面でその維持に配慮した活動を行っています。また地域社会との積極的なコミュニケーションをはかり、地域と密着した環境保護活動、社会活動に取り組み地域の皆様に貢献しています。

工場の取り組み



岡崎工場



住所 : 愛知県岡崎市橋目町 字御茶屋1番地
敷地面積 : 49,641m²
建物面積 : 32,344m²
生産品目 : カウル、インストルメントパネル、サイドフレーム、センターピラー



工場長 露口 健二

本社と敷地を共有する当工場は岡崎市の北西端に位置しています。名古屋方面から県道58号線(平針街道)を東進していくと、岡崎市の境界で本社ビルが存在感を示しています。地元北野学区とともに、安全安心なまちづくりに向け、防災、防犯、交通安全、環境保全活動を率先して行うことで、地

域との共生を図っています。当工場の生産活動は、大まかに金属材料のプレス加工、溶接組立、運搬・納入に分かれますが、従業員は環境保全の観点から、4つの分科会(省エネ、省資源、廃棄物削減、公害防止)のいずれかに属して、それぞれの持ち場で熱心に環境活動に取り組んでいます。

環境活動・社会貢献活動

- 地域の一員として役立ちたいとの思いから、駐車場フェンスに「みんなの願い 交通安全」の8mの横断幕やのぼり旗を取りつけ、安全運転を啓発したり、毎月ゼロの日と交通安全運動期間中の交通立哨活動と工場周辺の歩道清掃を、20年以上前から欠かさず取り組んでいます。昨年度は地元総代にも相談の上、駐車場へ防犯カメラを設置したり、業務用車両ヘドライプレコーダーを取りつける等、地域防犯にも貢献しています。
- 公害防止の面では、毎月の自主騒音、振動測定、水質調査、日々の水使用量と排水量の確認等の変化点管理を欠かさず行っています。浄化槽等の環境施設も法令要件を充たすよう更新しております。また、当工場はプレス機械を多数稼働させており、騒音レベルは岡崎市との協定値内にありますが、工場内壁面全面に防音シートを貼る等、要求レベルを大きく上回るよう、できる限りの防音対策を行っています。地域の皆様からずっと愛される会社であるよう、環境保全活動を継続してまいります。



環境負荷情報

電気使用量	9,224 千kWh	水資源投入量	133,639 t	化学物質大気排出量	1.91 t
ガス使用量	267 千m ³	CO ₂ 排出量	5,459 t-CO ₂	廃棄物排出量	53.6 t



緑工場

住所 : 愛知県豊田市緑ヶ丘 6丁目1番地
敷地面積 : 47,651m²
建物面積 : 40,089m²
生産品目 : サスペンションメンバー、リアアクスルビーム、フュエルインレットパイプ、インパネリインフォース、エキゾーストマニホールド



工場長 二井 広一

当工場では、主な生産品目としては、自動車部品のサスペンション、フュエルインレットパイプ、インストルメントパネルなどを、プレス→組立→塗装・亜鉛メッキ→出荷までの一貫した生産を行っています。工場方針として、『ものづくりを通して、地球環境保全に寄与すべく継続的改善の実施。』を目標に、環境の改善に努めて

います。改善項目といたしまして、この3年間で15台のガンリフトを電気リフトに変更いたしました。また工場照明のLED化、ライン統合(複数ラインを1ライン)、グリーンカーテンによる省エネ化など、積極的に進めCO₂排出量削減に努めています。私たちは、地域社会から支持され愛される企業を目指して努力してまいります。

環境活動・社会貢献活動

- 2014年10月 豊田市消防本部との特殊災害合同訓練を実施し、災害時の連携強化の確認を行いました。
- 2014年11月 豊田市消防署より『一日消防長』を委嘱され、豊田市駅周辺にて防火宣伝を実施し、住民の方に防火を呼びかけました。
- まちかど救急ステーション(AED設置事業所)として、緊急時取扱ができるよう、AED取扱講習を実施いたしました。



環境負荷情報

電気使用量	20,317 千kWh	水資源投入量	184,911 t	化学物質大気排出量	3.32 t
ガス使用量	2,948 千m ³	CO ₂ 排出量	12,474 t-CO ₂	廃棄物排出量	437.9 t



知立工場

住所 : 愛知県知立市逢妻町 道瀬山110
敷地面積 : 35,742m²
建物面積 : 19,381m²
生産品目 : マフラー、フェンダーシールド、カウル



工場長 白井 康能

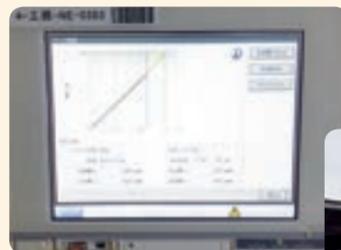
愛知県知立市にある当事業所は、主に自動車用ボデー板金部品を生産しております。2014年度は、生産ラインのシンプル化による生産効率の向上と、エネルギー消費の削減に重点を置き活動してまいりました。また、工場の全体空調稼働に伴い、夏季の電力使用過多に備え、デマンドコントロールシステムを導入しました。ピーク

カットによる最大使用電力の低減が実現し、省エネと経費低減の効果を得ることができました。公害防止の観点では、工場の出荷場に遮音壁を設置するとともに、路面の整備を行うことで社外への騒音を防ぎ取り組みを行いました。私たちは、本年度も地域社会と協力し、なくてはならない会社となるよう努力してまいります。

知立工場 ▶ 環境活動・社会貢献活動

●空調デマンドコントロールシステムの導入

デマンドコントローラが、電力消費量を常時監視して、目標の設定値に収まるように空調を自動的にコントロールしてくれます。これにより、人による監視や電力消費の調整が不要になるとともに、確実なピークカットによる契約電力量の引き下げも実現しました。



●遮音壁の設置による騒音低減

トラックへの荷役による騒音を防ぐ為、出荷場の脇に遮音壁を設けました。昨年より製品出荷量が増加し、それに伴い騒音発生機会も増えたことで、近隣への影響を減らすための対策として実施しました。



環境負荷情報

電気使用量	6,538 千kWh	水資源投入量	71,490 t	化学物質大気排出量	0.15 t
ガス使用量	41 千m ³	CO ₂ 排出量	3,351 t-CO ₂	廃棄物排出量	25.9 t



幸田工場

住所：愛知県額田郡幸田町 大字長嶺字柳沢1-1
敷地面積：236,742m²
建物面積：103,309m²
生産品目：マフラー、エキゾースト マニホールド等排気系システム



工場長 川淵 建夫

当工場は、敷地内に研究開発機能の部署も併設する、フタバ産業の中で最大の事業所です。開発部門と製造部門が協力して、積極的に新しい仕事にチャレンジしています。2014年度は、品質に関わる重要な認証であるTS16949を取得することができました。今後も、お客様の品質要求に応えられるよう継続的に活動を推進していきます。

また、当工場は、緑に囲まれた豊かな自然環境にあるため、環境へ配慮を重要な経営活動と捉えております。さらに、隣接する地域住民の皆様との交流も深め、あらゆるステークホルダーの皆様から愛される工場となるよう努力していきたいと思っております。

環境活動・社会貢献活動

●当工場では、地域住民の皆様との交流を図るため、毎年5月にグラウンドゴルフ・BBQ大会を開催しています。当工場が隣接する、幸田町長嶺学区、岡崎市竜谷学区の2つの学区の皆様にご参加いただいています。

毎年約100名が参加し、グラウンドゴルフでは、少しでもよいスコアを目指す本格派の方から、お父さんと一緒に楽しむ家族の方まで、皆さんで楽しんでいただいています。また、競技後に行われるBBQでは、地域の皆さんと川淵工場長をはじめとする当工場の従業員とが、和気あいあいと食事を楽しんでいます。

当工場が建設された当時から知る地域の方からは「このイベントを楽しみにしています。こういった場ができて本当に良かったと思います。」という言葉をいただきました。これからもこの活動を通して、地域の皆様から愛される会社を目指していきたいと思っております。

●当工場では、近隣小学校や大学生向けの社会科見学として、また行政機関等当社の活動内容紹介として、工場見学を実施しています。当工場の主要製品の紹介をはじめ、主要生産設備の紹介、製造ラインの見学など、生の現場を見ていただいています。また、当工場内に併設している「ものづくり研修センター」において、危険に対する感性を高める安全体感施設でのデモンストレーションをご覧いただくなど、当社および当工場での安全面の活動についてご紹介しています。



環境負荷情報

電気使用量	34,248 千kWh	水資源投入量	120,444 t	化学物質大気排出量	12.10 t
ガス使用量	13 千m ³	CO ₂ 排出量	20,723 t-CO ₂	廃棄物排出量	301.8 t



六ツ美工場

住所：愛知県岡崎市在家町 字向前田38番地
敷地面積：78,018m²
建物面積：48,525m²
生産品目：事務機・情報環境機器 排気熱回収器、燃料電池関連部品
自動車部品
ボデー部品、シャーシ部品



工場長 金本 傳夫

当工場では、主に自動車のボデー部品や情報環境関連部品を生産しています。ボデー部品は超ハイテン材の加工による車の軽量化、環境関連部品ではエネファーム等の基幹部品の生産を通して、環境・省エネに貢献しています。本年度はホットスタンプライン（加熱した鋼板を成形後に急冷する工法）が本格稼働となります。昨年度より当工場におきまして、強度

向上と相反する車体軽量化の両立の実現に向けてチャレンジをしております。また、生産ラインへの省エネ設備の導入や生産納入プロセスの改善をはかり、環境にやさしいものづくりで地球温暖化防止に努めるとともに、環境保護活動に取り組んでまいります。

環境活動・社会貢献活動

●地域社会への貢献を通して地元の皆様との交流を大切に考え、車両通行の多い工場東西の交差点横断歩道にて交通安全立哨を行っております。ゼロの日に加え交通安全県民運動期間中は毎日実施し、小中学生通学路の安全確保・交通事故防止に努めております。また社員への交通安全教育として、新入社員から40歳未満の社員を対象にした岡崎警察署交通課の方による講話、交通安全DVD教育により交通事故防止に努めております。



●CO₂削減に直結する省エネ活動について、2014年度は2013年度比1%削減（毎年1%削減）という目標に対し、改善アイテムを立案し実施しております。主な改善アイテムとしては、生産ラインのシンプル化（ロボットを必要最小限にしたスリムでコンパクトなライン）によりロボットの待機電力削減、インバーター化による最適条件での設備稼働、高効率変圧器への更新、LED照明の積極的な導入、空調の温度・時間管理の徹底です。他に、工程内不良低減活動によるエネルギー及び原材料使用のムダ削減、バッテリーリフト化推進による燃料使用量削減活動を行っております。また、省エネパトロールを毎月実施しており、省エネ意識の向上に努めております。



環境負荷情報

電気使用量	15,576 千kWh	水資源投入量	114,578 t	化学物質大気排出量	1.33 t
ガス使用量	3 千m ³	CO ₂ 排出量	9,001 t-CO ₂	廃棄物排出量	222.9 t



高橋工場

住所：愛知県岡崎市高橋町字一三 24番地
敷地面積：29,962m²
建物面積：17,343m²
生産品目：金型、溶接組付設備製作およびファインプランキング生産



工場長 三宮 嗣巳

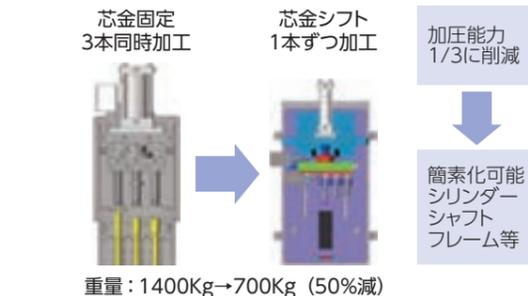
当工場は、生産技術本部としてプレス型、溶接設備を生産工場に供給する役割を担っております。シンプル、スリム、コンパクトを合言葉にCO₂削減に寄与するさまざまな工夫を加えたプレス型、設備を国内工場、子会社さらに海外子会社へも供給しております。また、自動車メーカーの設備造りもお手伝いさせて頂いており、さまざまな提案で環境に優しい設備造りを推進しております。プレス型造りに於いては、間口比と言う指標を取り入れ、製

品寸法に金型の大きさを極限まで近付ける取組みを進め、より少ない資源で同じ機能を実現しています。また、設備造りに於いてはLCA活動と言って一つの設備が生まれてから廃棄されるまでの設備の一生を通じて最小の資源消費で済ませる設計を行う様心がけ、CO₂排出削減に努めています。2015年度も引き続き、“生産準備段階での良し悪しが環境にも大きな影響を与える”として、「生準改革」に取り組み、より高い目標に向けて活動をしてまいります。

環境活動・社会貢献活動

- “シンプル・スリム・コンパクト” な型・設備造り (代表事例)
 - ① からくり機構による簡素化 (ユニット重量の半減)。
 - ② 環境にやさしい設備造り (設備重量の半減、使用エネルギーの低減)。
 - ③ パーチャル技術を活用しシンプル・スリム・コンパクトを追求。
 - ④ 曲げ化形状変更による材料使用量削減。
 - ⑤ プレス金型の工程短縮 (鋳物使用量の低減、使用エネルギーの低減)。
 - ⑥ 配線・配管施工図のデジタル化によるムダな材料の削減。
 - ⑦ トイレLED人感センサー付照明設置によるCO₂削減。

環境にやさしい設備造り



環境負荷情報

電気使用量	3,439 千kWh	水資源投入量	14,406 t	化学物質大気排出量	0.46 t
ガス使用量	2 千m ³	CO ₂ 排出量	2,534 t-CO ₂	廃棄物排出量	87.9 t



田原工場

住所：愛知県田原市緑が浜1号5番
敷地面積：102,461m²
建物面積：56,725m²
生産品目：マフラー、エキゾーストマニホールド等排気系システム、カウル、リアアスルハウジング



工場長 尾崎 和光

当工場は、海に面している事も環境汚染には特に気を付けています。排水処理は、自主基準値を設定し検査頻度をあげる等の管理を強化して汚染防止に努めています。省エネ活動は、LED照明・バッテリー式リフトの導入、省エネ設備への

更新等投資を行うと共に節電、エアリークなどの地道な活動にも力を注いでいます。全員が知恵を出し、協力しあいながら環境・社会活動に貢献しています。

環境活動・社会貢献活動

- フォークリフトをガンリンからバッテリーに更新
フォークリフト更新にあわせガンリン車からバッテリー仕様に変更 (6台) することでガンリン使用量を削減 (5,680L/月) し、CO₂排出量 (12.74tCO₂/月) も削減しました。コストの面でもガンリンと電気代の対比により301,758円/月の削減となりました。

●交通安全県民運動時に交通立哨

田原臨海企業交通安全協会合同で春・夏・秋・冬の交通安全県民運動期間に工場東側の産業道路において交通安全立哨を実施し、部課長及び労働組合代表の20名が参加しました。また、この期間中、工場横の通勤路でも毎日各部署交代で、のべ150名の従業員が交通安全立哨と周辺道路の清掃を行いました。



●「田原市ライトダウンキャンペーン」に参加

昨年に引き続き2月の省エネルギー月間に合わせ冬季ライトダウンキャンペーンと6~7月の夏季ライトダウンキャンペーンに協力しています。たはらエコ・ガーデンシティ地域協議会の活動の一環として市内のライトアップ施設などの消灯を呼びかけ、身近な電気を消すことで照明 (エネルギー) をいかに使用しているか、身近な電気を消しても不便でないことを実感し、地球温暖化問題について考えていくことを目的に市内の多くの企業 (今年度は51社) が参加しています。

●たはらエコチャレンジ宣言に登録

田原市のエコチャレンジ宣言 (市民と事業者が取り組む省エネ活動) に登録しています。事業所での省エネ活動に取り組み、田原市の主催するイベントに参加します。



環境負荷情報

電気使用量	20,905 千kWh	水資源投入量	134,566 t	化学物質大気排出量	1.08 t
ガス使用量	2 千m ³	CO ₂ 排出量	12,003 t-CO ₂	廃棄物排出量	88.8 t



株式会社フタバ九州

住所：佐賀県伊万里市大川町川原5515 (本社・伊万里工場)
敷地面積：136,973m² (本社、伊万里工場、直方工場計)
建物面積：45,378m² (本社、伊万里工場、直方工場計)

生産品目：マフラー、排気熱回収器、ピラー、カウル、インパネ、インレットパイプ、ペダル、ビーム



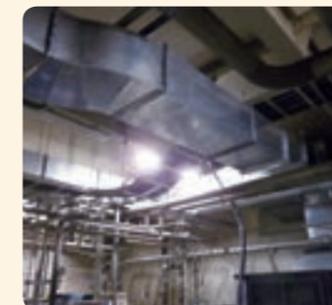
代表取締役社長 濱田 伸治

当社では恒例となっていますが伊万里工場・直方工場ともにグリーンカーテンを社員の手で設置し、社員自ら手入れを行うことで社員の環境マインドが育ってきました。また、社員のみならず取引会社様においても、日々の環境活動等を呼びか

けるなど環境に関心を持っていただけるよう声かけを行うことにより当社に関係のあるすべての人が環境を意識する「環境にやさしい人づくり」をすすめ、私が予てから申し上げている省エネ工場を目指しています。

環境活動・社会貢献活動

- 社員自らの工夫で行った改善として、直方工場のトラックヤードに斜熱塗料を塗布することにより塗布前に比べて10℃以上の職場環境の改善を行いました。伊万里工場ではコンプレッサーから出る暖かい空気を外に排出せず工場内に循環することにより暖房を制限し無駄な電力を削減しました。また両工場においてガンリンリフトからバッテリーリフトに順次入れ替えることでCO₂の削減に取り組みました。



環境負荷情報

電気使用量	14,892 千kWh	水資源投入量	18,419 t
ガス使用量	6.7 千m ³	廃棄物排出量	111.0 t



株式会社アピックス

住所：愛知県額田郡幸田町
大字須美字南山2-1 (本社、工場)
敷地面積：49,699m² (本社、幸田工場、安城工場計)
建物面積：17,681m² (本社、幸田工場、安城工場計)

生産品目：自動車部品、金型製作、
プレス加工並びに組付



代表取締役社長
中村 隆史

当社の本社・幸田工場は国道23号線沿い須美インターに隣接する工業団地に立地しており、工場は周りを緑に囲まれ、素晴らしい環境の中で、日々、生産活動を行っております。私たちは地域の環境を守ると共に地域社会に貢献できる活動を進め、地元行事にも積極的に参加し地域住民とのコミュニケーション向上に努めております。

生産活動では、TPS (トヨタ生産方式) を基軸とした改善活動を展開し、生産体制の見直しや生産性向上に取り組んでいます。また、全員参加による省エネ活動や廃棄物低減活動等を通して社員一人ひとりの環境保全に対する意識を高め、環境負荷低減に寄与していきたいと考えています。

環境活動・社会貢献活動

- 当社は社会貢献活動として、近隣小学校5年生児童30名の工場見学の受け入れを行いました。製造現場で実際に製品を作っているところを見学し、非常に感動をした、というクラスの皆さんから感想文集を頂き、大変喜んで頂けたと感じています。また、周辺の道路の清掃活動や除草作業などの環境美化活動や祭礼行事への参加、近隣の道路の利用状況などを行政とも相談しながら交通安全活動の取り組みをしております。



環境負荷情報

電気使用量	2,082 千kWh	水資源投入量	5,863 t
ガス使用量	16 千m ³	廃棄物排出量	19.0 t



株式会社フタバ平泉

住所：岩手県西磐井郡平泉町
平泉字上徳沢65 (本社、工場)
敷地面積：77,244m²
建物面積：17,148m²

生産品目：マフラーおよび
ボデー部品



代表取締役社長
西山 一雄

経営理念の一つである『地域社会から広く信頼され、愛される会社』を実現できるよう、従業員が働きやすく、地域住民が住みやすい環境づくりに努めております。小さな活動の一つずつ着実に取り組み、確実にやり遂げ、積

み重ねることで、大きな活動に繋がっていくと考えております。従業員一人ひとりの環境保全に対する意識向上を図るために、環境マネジメントシステムの推進を進めていきたいと考えております。

環境活動・社会貢献活動

- 当社では、省エネ活動の一環として、事務棟の空調機をKHPからGHPへ切り替えました。これにより、CO₂排出量を約25%削減することが可能となりました。また、定期的な工場周辺のゴミ拾いや、工業排水の定期調査による河川汚染措置を実施することにより、地域社会の環境活動に貢献しております。



環境負荷情報

電気使用量	3,997 千kWh	水資源投入量	1,864 t
ガス使用量	0.0023 千m ³	廃棄物排出量	10.3 t

お客様との関わり

私たちは、最先端技術の研究と開発に努め、製品・サービスをお客様に満足していただける品質・コストで全世界に提供します。

品質担当役員のメッセージ



品質保証責任者
品質保証本部本部長
黒野 徳義

品質改善活動にゴールはありません

当社の経営理念にある「お客様に信頼される会社」である為に、『よい品質』を届けることは、私達にとって絶対達成しなければならない条件になります。

2014年度も、品質保証の基本を守ることを重視し、再発防止に拘りながら、品質改善活動を「徹底的に、粘り強く」「愚直に、地道に」推進し、一定の成果が得られた一年となりました。

しかしながら品質改善活動にはゴールはありません。品質意識をさらに向上させ、目指す姿の「お客様に信頼される会社」になるため、グループ社員全員が一丸となって、取り組んで行きます。

品質方針

2015年度の品質保証本部方針は、

- ①設計、生準、製造の各段階で要件を確立し、全機能一体で品質作り込み体制を強化する
- ②品質優先のマインドの定着を目指し、真のコミュニケーションと継続的な品質教育による体質改善を実施する
- ③改善完了に拘った、QA点検、特殊工程(溶接、表面処理、熱処理)自主監査の継続遂行
- ④一件一件の不具合に真摯に向き合い、真因対策の確実な実施と的確な顧客対応により、顧客満足を掴みとる
- ⑤ISO/TS16949の全社展開に向け、品質マネジメントシステムの実践に向けた課題を解消する

としています。

品質優先への意識改革を基盤に、全機能一体で品質作り込み体制を強化し、「品質で信頼される会社」を目指します。

品質向上活動

フタバグループ全体の品質レベル向上のため、「品質機能会議」「品質改善活動報告会」などを設けています。

品質機能会議

各部署の品質向上への取り組みをトップに報告する月例会で、国内全工場が参加し、フタバの品質に対する方向性を迅速に決定すると共に、会社全体の意思統一を図っています。

品質改善活動報告会

品質担当執行役員が各工場の製造現場に出向いて品質改善活動状況の確認・指導を行ないます。「3ヶ月毎の品質改善サイクル」「工程内不良低減活動」の確認を通し、トップの思いと方針を直接展開することによって、品質向上に対する意識を高めています。



▲品質改善活動報告会

グローバル展開

フタバの品質向上活動を国内・海外の各子会社にも展開し、毎月TV会議等で活動内容を確認しながら、グループ全体の品質レベル向上を目指しています。



お客様との関わり

TNGA推進優秀賞を受賞

2015年2月27日（金）、当社は名古屋国際会議場にて開催された「2015年トヨタグローバル仕入先総会」にて「TNGA推進優秀賞」を受賞しました。これはトヨタ自動車㈱が推進する「もっといいクルマづくり」に向けたTNGA活動に、当社が新開発した排気管が貢献したとして評価されたものです。

当社は2012年度よりフタバTNGA委員会を立ち上げ、先行開発段階から全社を挙げた活動を推進しており、受賞対象の「超薄型マフラー」では、車両床下の空力性能を向上させたことによる燃費向上、薄型設計でラゲージ容量が拡大したことによるスペースユーティリティの向上、後方からの見栄え向上といった商品力向上とマフラー断面の共通化や生産工程の集約による価格競争力向上の両立を実現しました。

なお、当社が同総会にて壇上で受賞するのは、2007年以来8年ぶりとなります。



株主・投資家との関わり

ディスクロージャーポリシーを定め、株主・投資家の皆様に対し、適時、正確かつ公平な情報提供に努めます。

情報開示方針とIR活動

当社では、投資判断に影響を与える決定事項、発生事実、決算に関する情報等が発生した場合の重要情報の開示については、金融商品取引法等の諸法令ならびに、東京証券取引所の定める規則に従ってディスクロージャーを行っています。

また、これらに該当しない場合でも、投資家の皆様の投資判断に影響を与えると思われる情報や当社を理解いただくために有用と考えられる情報については、当社独自の判断により自主的に開示していきます。



▲第101回定時株主総会

株主様とのコミュニケーション

株主様とのコミュニケーションを重要と考え、定時株主総会は、交通の利便性を最優先させた会場で開催しております。

また、ものづくりフェアなどに積極的に参加し、当社の取り組みについて株主様にご理解の場を設けています。



仕入先との関わり

常にグローバルな視点で経営を行い、仕入先とともに成長・発展していきます。

2014年度方針

当社は仕入先との長期的視野にたった相互信頼に基づく共存共栄を目指す施策を実施しております。

1. 仕入先目線での体質強化活動の推進（安全・品質・財務向上の相互研鑽）
2. グローバルでフタバTNGAに貢献できる調達基盤づくり
3. 調達人材育成プランの作成・実行（3ヶ年計画育成プラン・3ヶ月プロセス報告会）
4. 他部門との連携強化（方針報告会・生準改革との連携・他部門との共同活動）

調達基本方針

フタバ産業の調達は、大事なお客様に満足いただける部品づくりのために、以下の3点を基本方針として取り組んでいます。

1 オープンでフェアな最適調達

- ・仕入先選定にあたっては、品質・原価・技術・納期面での期待値を明確にして、その達成成果を正しく評価します。
- ・新規売り込みに対しては、常にオープンにしており品質・原価・技術・納期に加え、経営状況・反社会性・環境取組みなどを総合的に公平に判断します。

2 相互信頼に基づく継続的取引

- ・長期的な取引を前提とした相互協力の下、率直な双方向コミュニケーションを図り、相互繁栄を目指します。
- ・将来に向けて、フタバ・仕入先双方が競争力のある原価実力を確保するために、仕入先と協力して中期的な視野に立った原価低減活動に取り組めます。

3 グローバル視点と地域最適調達のベストマッチ

- ・お客様が生産する場所での最適なモノづくりに貢献するために、世界各地域で競争力のある調達基盤をつくります。
- ・現地仕入先を積極的に活用することで、地域社会に貢献します。

仕入先との信頼関係の構築

2013年4月より本社2Fに「仕入先コミュニケーションルーム」を開設いたしました。①フタバ「VISION 2020」②調達本部方針および資材調達、部品調達、金型・設備調達各部の方針 ③お客先様の情報 ④仕入先の品質状況 ⑤原価改善好事例 ⑥品質事例 ⑦当社受注製品のご紹介 ⑧生産工場情報 ⑨生産技術金型情報 ⑩生産技術設備情報 ⑪海外生産拠点情報 ⑫当社へのご意見箱など、当社より仕入先に向けて、また、仕入先相互のコミュニケーションの場として積極的に様々な情報を発信しています。



▲仕入先コミュニケーションルーム

グリーン調達

当社が製造・販売する製品等を構成する調達品について、当社と共に環境保全活動に取り組み、環境管理体制の構築と環境負荷低減活動を積極的に推進する仕入先から優先に調達できるよう取り組みを行っております。

当社の環境方針をもとに、仕入先に対して、環境自主活

動の推進として ①法令の遵守 ②環境マネジメントシステムの構築 ③環境負荷低減活動の推進（物流に関わるCO₂排出量の低減、梱包・包装資材の低減、環境パフォーマンスの向上）をお願いし、グリーン調達の実現に向け取り組んでおります。

従業員との関わり

従業員の人格、個性を尊重し、安全で働きやすい環境を確保するとともに従業員のゆとりと豊かさの実現に努めます。

人事担当役員のメッセージ



総務・人事本部長
藤井 孝司

共に働く仲間が生きがいと誇りを持てる会社に

当社の経営理念には「共に働く仲間が、生きがいと誇りを持てる会社」とあります。この「生きがいと誇りを持てる会社」の実現の為には「共に働く仲間」が互いに尊重しあい、安心して働ける環境の中で精神的にも充実していなければなりません。そのために当社では従業員一人ひとりがより高いレベルの技能や意識を持てるように各種の従業員教育と、安全で働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいます。

安全第一の職場づくり

昨年度の活動を継続して実施するとともに、設備異常撲滅活動を新たに盛り込んで活動しています。

安全はマネジメントそのもの
そして何よりも優先すべきである
三井物産

昨年度の活動を継続する活動「A」と、昨年の結果に対する改善活動「B、C」を主として活動しています。

【A. 安全安心な職場構築活動】

- ①上司と部下のコミュニケーション向上活動
- ②従業員の危険に対する感性の向上活動
- ③職場のリスクダウン活動

【B. 労働災害発生の未然防止活動】

- ①重大災害発生防止活動
- ②作業者の知識、意識改善活動『2015「ポケ手なし」活動』
- ③歩行安全の周知徹底活動

【C. 健康増進活動】

- ①メタボ改善を目的とした、ヘルシーアップキャンペーンの実施
- ②受動喫煙防止を狙った、卒煙キャンペーンの実施と屋外喫煙所の整備活動
- ③熱中症発症「ゼロ」を目的とした、作業環境改善と熱中症グッズなどの改善活動

人材育成

ものづくりのプロを養成

ものづくりに強い人づくり、職場づくりや、固有技能に卓越した匠の育成を目指し、2011年にものづくり研修センターを開設しました。

安全や品質に関する座学での集合教育や、体感コーナーでの体感教育、コア技術となるプレス、溶接に関する特別教育などの資格取得、各種技能競技会などを実施し、人材育成に努めています。

労働災害発生頻度(休業度数率)



2015「ポケ手なし」活動

- 「ポ」** ポケットに手を入れたまま歩行・行動しない。
- 「ケ」** 携帯・スマホは立ち止まって通話・操作する。
- 「手」** 手すりを持って一段一段階段を昇降する。
- 「な」** 斜め横断禁止。道路を渡るときは、横断歩道上を歩く。
- 「し」** 「指差呼称」立ち止まって指と目で左右を確認する。

能力開発教育の実施

階層別教育

職種、職位で求められる知識・能力の向上に向け、新入社員研修をはじめとし、問題解決研修、マネジメント研修、経営幹部育成研修など、新入社員から幹部社員まで各階層に応じた研修を実施しています。



▲階層別教育(新入社員教育)

機能別教育

グローバル人材育成を主眼とした語学選抜研修や異文化研修、ものづくりの基礎となるTPS教育や品質教育など、各機能に応じた専門性を重視した教育を実施しています。



▲機能別教育(プレス安全教育)

職場別教育

各職場における現地現物でのOJT(職場内訓練)の推進および職場内教育を実施しています。



▲生産現場でのOJT教育

多様な人材の活用

「問題解決力」、「行動力」、「チームワーク力」、「学び続ける力」を持ち、グローバルに活躍できる人材の採用を目指しています。

障がい者雇用

障がい者の自立と社会参加を支援するため、積極的な雇用に取り組んでいます。2014年度の雇用率は2.37%となっており、法定雇用率を上回る雇用率に達しました。今後も障がい者雇用の拡充に努めていきます。

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
社員数	3,085人	3,166人	3,205人	3,211人	3,249人
(内 女性社員数)	262人	278人	292人	286人	286人
外国人社員数	13人	14人	18人	19人	17人
再雇用者数	64人	75人	78人	87人	86人
障がい者雇用率	1.78%	1.82%	1.84%	2.29%	2.37%

働きやすい職場づくり

年次有給休暇の取得推進

仕事と休暇のメリハリをもつことが個人の力を最大限発揮できるという考えから、当社では、労使で年間15日の年次有給休暇の取得推進に取り組んでいます。また、社員が心身をリフレッシュし、新たな気持ちで業務

育児支援制度の充実

従業員が育児や介護と仕事を両立して働き続けやすい環境づくりに努めています。2012年4月1日からは、育児短時間勤務制度の利用対象となる子の年齢を「3歳」から「小学校4年生を修了するまで」に拡充したほか、始業時間を30分単位で個別に選択可能にするなど、育児をしながら働く社員が、柔軟な働き方ができるように積極的に取り組んでいます。

に取り組めるよう、毎年1回、3日連続で年次有給休暇を取得できる制度や、永年の勤続の節目に5日連続で年次有給休暇を取得できる制度を設け、労使で取得状況を確認し合うことで取得推進に努めています。

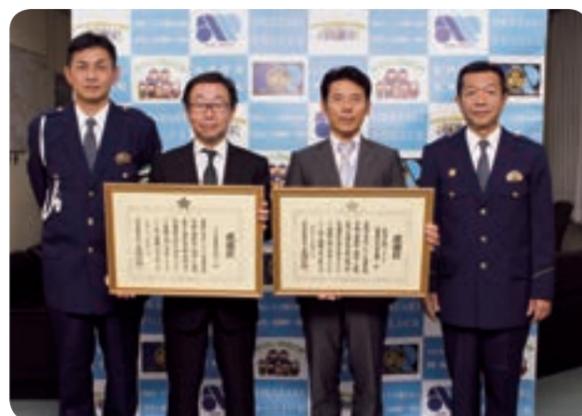
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
育児休業者数	25人	31人	34人	43人	46人
育児休業後復帰率	81.5%	88.9%	94.1%	95.3%	100.0%
育児短時間勤務取得者数	3人	5人	21人	20人	27人

地域社会との関わり

地域の皆様と、信頼の絆を築きたいとの思いのもと、地域社会との積極的なコミュニケーションをはかりつつ、様々なご意見・ご指摘に応えることで、社会貢献活動をステップアップしたいと考えます。

県警本部長感謝状が贈られる

2015年4月1日、地域で3年以上にわたり交通安全活動に尽力したとして、岡崎警察署にて県警本部長感謝状が贈られました。これは地元の小学生の通学の見守り活動と児童への交通安全啓発品の配布、幸田町に公用車のドライブレコーダー寄贈、ナイトポリス看板の購入・設置などの活動が評価されたものです。当社としては初めての受賞となりました。



▲県警本部長感謝状が贈られる

第4回フタバ産業旗争奪少年野球大会の開催

当社は、青少年の健全な育成と体力・技術の向上を目的とし、地元企業の社会貢献活動の一環として少年野球大会を開催しています。第4回を迎えた今大会は2014年9月～10月にかけて行われました。今大会には岡崎市を中心とした近隣の市町村の少年野球チームが出場し、過去最大の32チーム、約500人の選手が熱戦を繰り広げました。

第4回大会は熱戦の末、美川クラブの皆さんが2年ぶり3回目の優勝をされました。



▲第4回フタバ産業旗争奪少年野球大会



交通安全立哨活動を実施

2015年4月7日、当社は新入学児童の初登校日に合わせて、交通安全立哨活動を行い、交通安全グッズを配布しました。社長の三島をはじめとする役員が岡崎警察署の山内署長とともに児童一人ひとりに交通安全グッズを手渡し、交通安全を呼びかけました。また当社従業員は工場周辺にて立哨活動を行い、従業員や地域の方へ交通ルール遵守を訴えました。



▲交通安全立哨活動を実施



▲カブトムシ捕りを開催

カブトムシ捕りを開催

2014年8月2日、当社は森づくり活動の夏季イベントとして、岡崎市旧・桑谷山荘北側の市有林にて「カブトムシ捕り」を開催しました。当日は3歳から9歳までの子供たちが参加し、エサ場が集まってきたカブトムシやクワガタなどを自分の手で捕まえる事を体験しました。



FMIが一大清掃キャンペーンに参加

2015年1月15日、当社のインド子会社であるFMI Automotive Components Ltd.はインド全土で開催された一大清掃キャンペーンに参加しました。このキャンペーンはインドのモディ首相主導によるイベントであり、FMIも参加し、ニューデリー駅の清掃活動を行いました。当活動は、モディ首相自身のSNSや各報道機関でも取り上げられるなど、インド国内で高い関心を集めました。



▲FMIが一大清掃キャンペーンに参加

地域の方の声

「家下川を美しくする会」 伊奈 浩 様

当会は、河川敷の広場や遊歩道を、安全に利用できるようにして欲しいと言う地域住民からの要望を受けて、平成18年（2006年）に設立されました。

当時の河川敷は、竹、雑木、雑草で深く覆い尽くされ見通しが悪く、不法投棄も見受けられる状態でした。広大な現地の美化活動には、多くの方の協力が必要ですが、御社からは毎年多数の社員の皆様にご参加くださり、本当にありがとうございます。改めて、御社の社会貢献および環境保全の意識の高さを感じております。

この河川敷美化活動は毎年12月に行われ、地域住民、中学生、高校生も参加する恒例の一大行事となりました。このような皆様のご協力があり、今では広くきれいな広場と遊歩道が整備されています。また、ここで切り出された竹材は、どんど焼き、竹ローソクでの月見会といった地域の行事に使われて、たいへん喜ばれております。お陰をもちまして、今年度は国土交通省・中部整備局の表彰を受け、岡崎市では初めてとなる河川協力団体に指定されました。

これからも、広くきれいな広場と遊歩道の整備・維持に努めてまいりますので、当会にご協力頂きます様、よろしくお願ひ申し上げます。

